参考資料６

杉山雅則（(1904（明治 37）年～1999（平成 11）年)）について

【概要】

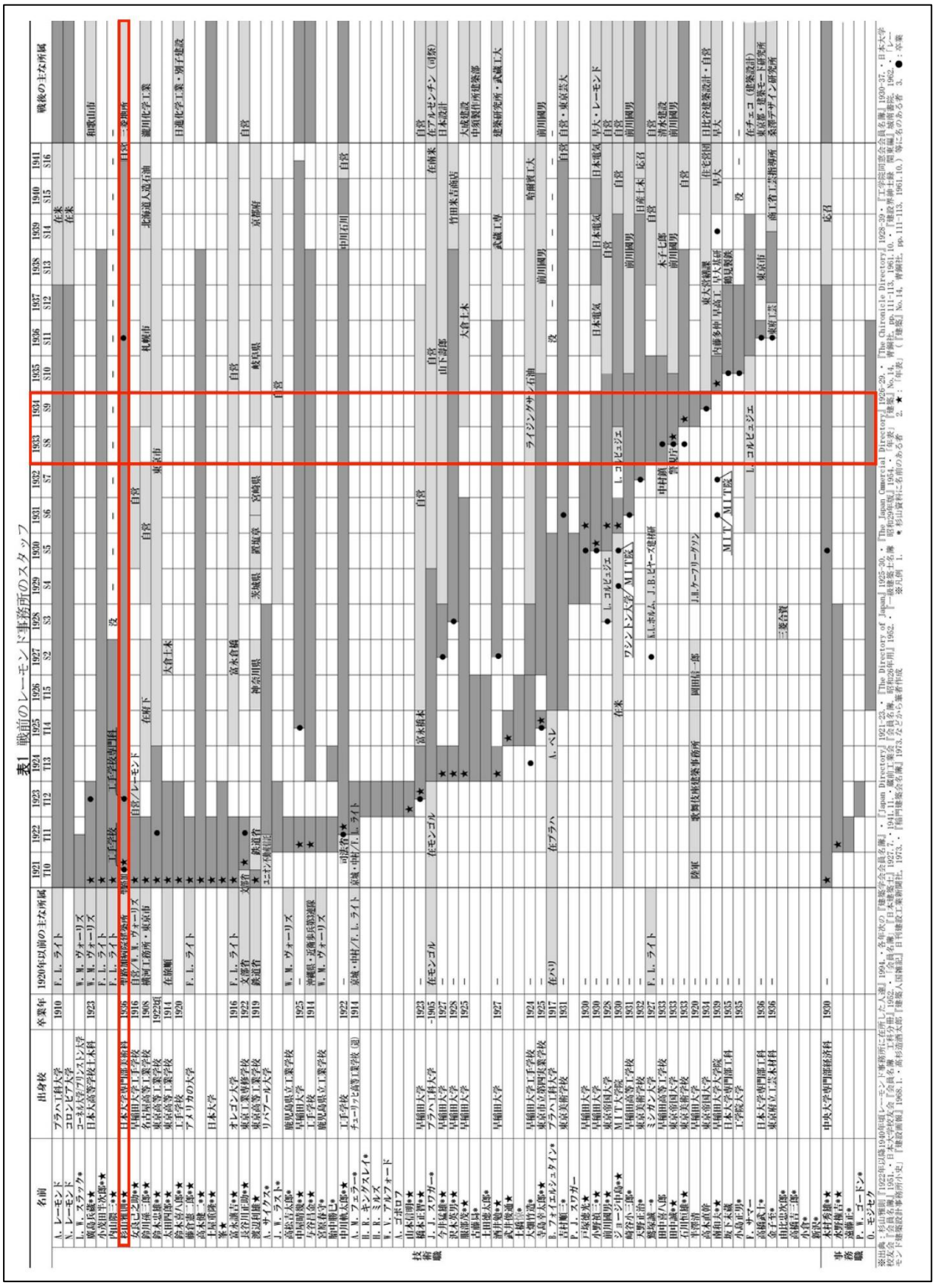
・1921～1941 年レーモンド事務所勤務、赤星鉄馬邸を担当

・1941 年以降は三菱地所設計勤務

「また、杉山雅則は第二次大戦の始まる時まで私の所にいたが、戦時中、デザイナーとして三菱地所に入り、引き続き現在に至っている。彼は非常に優れた建築家となり、三菱地所で設計した多くの大ビルや、新宿の洋裁学校の丸い建物などでよく知られている。」（「アントニン・レーモンド自伝」より）

時期	主な担当作品・仕事について
1921（大正 10）～ 1941（昭和 16） レーモンド事務所	○レーモンド自邸（1923） ○紐育スタンダード石油株式会社（1927） ○東京ゴルフ倶楽部（1932） **○赤星鉄馬邸（1934）** （赤星邸の門を指して、レーモンドがデザインしたのかという問いかけに対して）「いや、これはレーモンドの奥さんです。奥さんがスケッチしたものを私が日本の太筆で原寸図を描いた覚えがあります。」（「SD」第 286 号・7 月号【特集】昭和初期モダニズムより） ○ブレーク邸（1935） ○ケラー邸（1935） ○東京女子大學講堂及礼拝堂（1938） ○図司邸（1940） **左：ケラー邸（出典：「国際建築」1938 年 3 月号）** **右：東京女子大學講堂及礼拝堂（出典：「国際建築」1938 年 5 月号）**

時期	主な担当作品・仕事について
1941（昭和 16） 自営	
1942（昭和 17） 三菱地所 ※1948（昭和 23） レーモンド再来日	※三菱地所入社のきっかけ：「(略) 地所が人を求めているという話があって、赤星鉄馬さんに地所のトップの赤星陸治さんに紹介状を書いてもらった。しかし病気で面会謝絶でした。」（三菱地所設計 130th Anniversary Web サイト（https://www.mjd.co.jp/130th/mukashiima08.html）より） ※レーモンド事務所再建直後：「他のレーモンド事務所 OB が再建したので、自分もと思って社長の中川軌太郎さんに辞表を出したんですが、事情はわかるが忙しいから残ってくれといわれ、結局、半日は地所、半日はレーモンドという奇妙な勤務が認められて、1 年ほどそんな状態でした。」(同上) 杉山は、1960(昭和 35)年 6 月の退社まで三菱地所のデザイン面をリードした。（退社後、1983（昭和 58）年頃まで嘱託で在籍した。） ◯第三丸の内ビルヂング（1958） ◯丸の内再開発事業（1950 年代～） 【第一段階】 東銀ビルヂング（1958）（杉山、梶谷裕一、渡辺寿一） 【第二段階】 「東銀ビルヂング」、「千代田ビルヂング」、「日本ビルヂング」、「有楽町ビルヂング」、「新有楽町ビルヂング」（杉山、梶谷)、「富士製鐵ビルヂング」、「三菱電機ビルヂング」、「新東京ビルヂング」（杉山、渡辺） 日本ビルヂング 有楽町ビルヂング 新有楽町ビルヂング 新東京ビルヂング

■参考：第二次世界大戦前のレーモンド事務所のスタッフ

速水清孝「戦前のレーモンド事務所の設計スタッフと組織について」（日本建築学会東北支部研究報告集計画系第 29 号　平成 28 年 6 月　より）